第１回令和６年能登半島地震対応検証委員会

令和６年７月29日
射水市

議事

１　令和６年能登半島地震の概要

２　市内の被害状況

３　市の対応等

４　検証

１-１　令和６年能登半島地震の概要

発生時刻	令和６年１月１日　１６時１０分
震源地	石川県能登地方
地震の規模	マグニチュード７．６ （最大震度７石川県輪島市、志賀町）
県内震度	震度５強：富山市、高岡市、氷見市、 小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村 震度５弱：滑川市、黒部市、砺波市、 上市町、立山町、朝日町 震度４　：魚津市、入善町

１-２　令和６年能登半島地震の概要（津波の観測状況）

＜津波の観測状況＞

１月１日

　１６時１２分　津波警報発表

　１６時１３分　富山検潮所　第一波到達

　　（引き波△５０ｃｍ）

　１６時３５分　富山検潮所　最大波７９ｃｍ

※気象庁現地調査で、海竜新町で１．５メートルの遡上高を確認

２－１　市内の被害状況（人的被害）

＜被害状況＞

●人的被害（７月１日時点）

負傷者 ７名

・重傷者 ４名（40、60、80歳代・女性４名）

灯篭が倒れて負傷３名、地震の揺れで壁に強打１名

・軽傷者 ３名（20歳代・男性１名、70歳代・女性２名）

2－2　市内の被害状況（住家被害）

＜被害状況＞

●住家被害（７月１日時点）

区分	損壊割合	罹災証明書交付件数
全壊	50％以上	14件
大規模半壊	40％以上　50％未満	11件
中規模半壊	30％以上　40％未満	11件
半壊	20％以上　30％未満	33件
準半壊	10％以上　20％未満	84件
準半壊に至らない（一部損壊）	10％未満	2,739件
合計		2,892件

２－３　市内の被害状況（インフラ関係等）

＜被害状況＞（７月１日時点）

●断水件数　　２１１件（１月３日に解消）

●道路通行止め　　２０箇所（うち１箇所　実施中）

●道路の液状化　　３０箇所（全て通行可能）

●道路陥没等　　４６箇所（全て通行可能）

●下水道施設　　処理場５箇所、管渠９，９３６ｍ、
雨水ポンプ場１箇所（順次対応中）

２－４　市内の被害状況（避難者数）

＜避難者数＞

区　　分	避難所開設施設数・受入施設数	最大避難者数
指定避難所（一次避難所）	５８／７３	約７，４００人
指定緊急避難場所（指定避難所以外）・津波避難ビル	８／１９	約１，２５０人
上記以外の施設 ※市として指定していない施設 （市役所、市民病院、布目庁舎、警察署、スーパーホテル、コストコ、特養太閤の杜、エスポワールこすぎ等）	１０	約４，２００人
合　　計	７６	約１２，８５０人

2－5　市内の被害状況（福祉避難所）

＜福祉避難所の開設状況＞

1月2日　10:30　福祉避難所　開設

特別養護老人ホーム　射水万葉苑　１か所

避難者1人（要介護高齢者）

1月3日　14:05　福祉避難所　閉鎖（避難者帰宅により）

3－1　市の対応等（災害対策本部会議）

＜開催状況＞

・災害対策本部会議
１月１日～１月１９日
計１７回

日	時	内　　容
１月１日	１７：３０ ２２：３０	市民の安全確保、被害情報の把握 被害情報の把握、物資提供他
１月２日	１０：００ １８：００	被害・対応状況、避難所の状況他 被害・対応状況、避難所の状況他
１月３日	１３：００	被害・対応状況、避難所の状況、災害ゴミの処理、被災建築物応急危険度判定他
１月４日	１１：００	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等交付事務他
１月５日	１５：００	被害・対応状況、避難所の状況、応急危険度判定、住宅相談他
１月６日	１４：００	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付、市営住宅の一時提供他
１月７日	１４：００	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの人的支援、石川県から避難者他
１月８日	１４：００	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付、他自治体から人的支援他
１月９日	１４：００	被害・対応状況、避難所の状況、罹災証明書等申請受付他 （県危機管理局からリエゾン（災害対策現地情報連絡員）1名同席）
１月１０日	１４：３０	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、災害義援金受付、石川県への派遣他（県危機管理局からリエゾン（災害対策現地情報連絡員） 1名同席）
１月１１日	１４：３０	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの応援、各種支援制度他 （対口支援で派遣された青森県職員２名同席）
１月１２日	１７：３０	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、他自治体からの応援他
１月１５日	１３：３０	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、ふるさと納税の状況他
１月１７日	１３：３０	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、石川県からの避難者他 （対口支援で派遣された青森県職員２名同席）
１月１９日	１６：００	被害・対応状況、罹災証明書等申請受付、各支援制度他 （対口支援で派遣された青森県職員２名同席）
２月１日		災害対策本部から被災者支援・災害復興本部に移行

3－2　市の対応等（被災者支援・災害復興本部）

＜開催状況＞

２月１日から
「災害対策本部」から
「被災者支援・災害復興本部」に移行

・２月１日以降、計６回開催
（次回開催は未定）

日　時		内　容
２月１日	９：００	第１回本部会議 被害・対応状況 被災家屋の公費解体
２月９日	１５：３０	第２回本部会議 被害・対応状況 下水道施設復旧計画 見舞金・支援金等の至急事務 道路等の復旧スケジュール 被災家屋の公費解体
２月１６日	１０：３０	第３回本部会議 被害・対応状況 災害復旧地域活動支援金 被害認定調査体制
２月２７日	１６：００	第４回本部会議 被害・対応状況 賃貸型応急住宅の提供 被害のあった償却資産の減免
４月１日	１０：３０	第５回本部会議 被害・対応状況 **復旧・復興ロードマップ　（4/12策定）**
４月２６日	１０：００	第６回本部会議 被害・対応状況 土質調査の実施 災害復興事業説明会

3－3　市の対応等（応援職員の受入）

＜応援職員の受入＞

青森県及び同県２６市町村 （総務省の「応急対策職員派遣制度（対口支援）」）	６３名
災害時応援協定自治体 （長野県千曲市、東京都荒川区、愛知県稲沢市）	３６名
富山県及び県内９市町	１１７名
合計	２１６名

業務内容
　住家の被害認定調査業務
　罹災証明発行業務

中長期派遣

公費解体：愛知県稲沢市3名（R7.3.31まで）

道路復旧：長野県千曲市、愛知県稲沢市2名（R7.3.31まで）

下水復旧：愛知県田原市、長野市2名（R7.3.31まで）

3-4　市の対応等（災害ボランティアセンター）

＜災害ボランティアセンターの活動＞

１月　３日　市社会福祉協議会が開設
１月　４日　災害ボランティア　受付・活動開始
１月３１日　災害ボランティアセンター　閉鎖

●ボランティア登録人数　　３９２名（１２団体含む）
●ボランティア活動件数　　１４件（新湊8、小杉4、大島2）
●ボランティア活動延べ人数　２４３名
●活動内容
　ブロック塀撤去、土のう運搬、家具の解体・運び出し 等

３－５　市の対応等（消防の対応）

【油漏れ・ガス漏れ等出動】

ホームタンク転倒等による油漏れ　１２件
（ドローンによる油流出状況確認　１件）
ガス漏れ（LPガス及び都市ガス）　7件
その他　6件
（電気引き込み線断線による通行障害等）

【地震関連救急出動】

地震による灯ろう等の下敷き等　２件
転倒等　１件
避難所等での救急要請　６件

3-6　市の対応等（被災者支援・災害復興ロードマップ）

＜被災者支援・災害復興ロードマップ＞　　令和６年４月１２日策定

【目的】
　生活再建に向けた公的支援や公共インフラ復旧等の取組の全体像とスケジュールを「見える化」し、被災者の不安の軽減や安心した暮らしのビジョン形成につなげるとともに、一日も早い復旧・復興を推進する。

【期間】
　令和８年度まで　※状況に応じて更新

Ⅰくらし・生活の再建	Ⅱ公共インフラ等の復旧	Ⅲ地域産業の再生	Ⅳ防災力の強化

3－7　市の対応等（被災者支援・災害復興ロードマップ）

＜被災者支援・災害復興ロードマップ＞

Ⅰくらし・生活の再建

住宅の復旧や生活支援、被災者の心のケア等を支援

Ⅱ公共インフラ等の復旧

被災した道路や下水道施設、農林水産業施設、学校等の復旧のほか、橋りょうや上下水道施設の耐震化

Ⅲ地域産業の再生

中小企業や農林水産業、観光関連産業等の復興支援

Ⅳ防災力の強化

自主防災組織の活動や地区防災計画の策定を支援

4－1　今回の検証（検証委員会の目的）

＜検証委員会の目的＞

能登半島地震で顕在化した、主に住民避難等に関する、課題・問題点について整理・検証し、地域防災計画や各種マニュアル等の見直しの方向性を整理する。

〇市民緊急アンケート調査（回答率13.7%）
〇避難所へのアンケート（地域振興会、小中学校）
〇人流分析（射水ケーブルネットワーク㈱提供）
〇ヒアリング（職員等から）

→ 課題・問題点 → 対策(案)の検討

4－2　今回の検証（検証項目の設定）

＜検証項目の設定（案）＞

①住民の避難行動

避難行動の人流分析、避難時の道路渋滞　等

②避難所開設・運営

鍵の解錠、避難所の運営、要配慮者への対応　等

③災害対策本部の運営

災害対策本部の体制、情報発信　等

④関係機関との連携、受援体制

関係機関との情報共有、受援体制（応援団体、協定先、災害ボランティアの受入等）

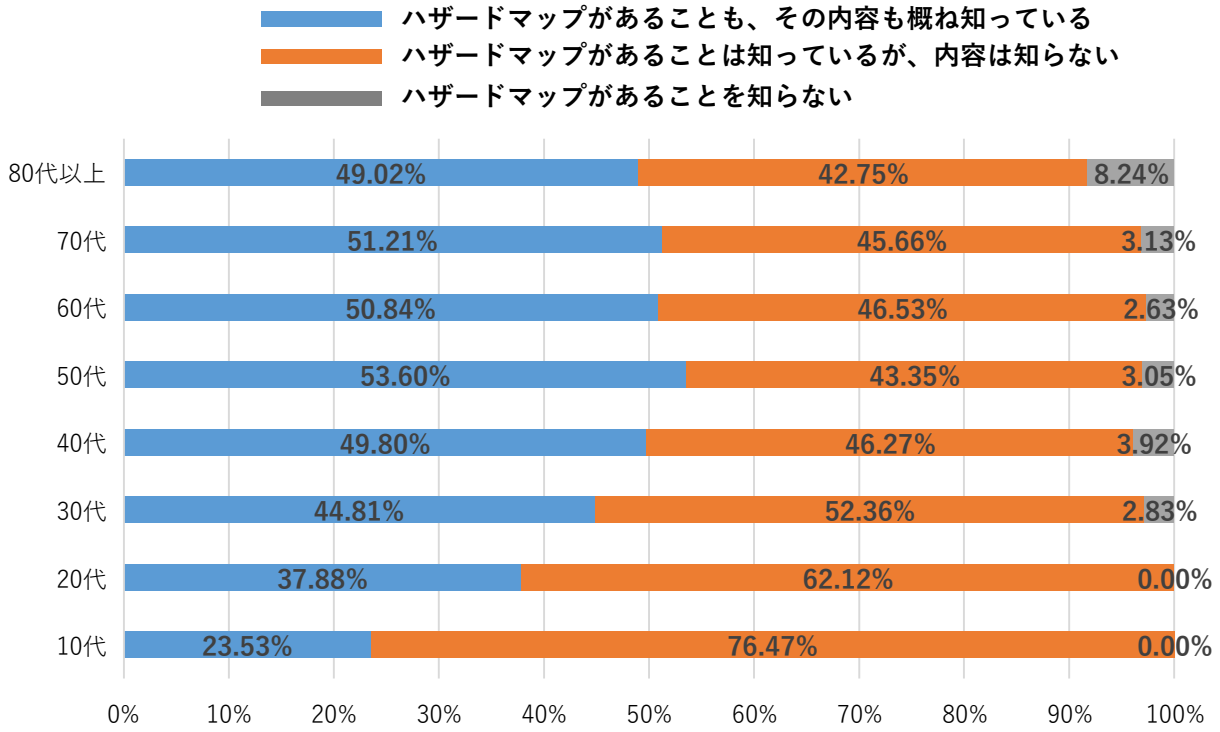
市民のハザードマップの理解度　市民アンケート【問２】

〇全ての年代の９割以上がハザードマップの存在を認知している。

〇４０歳以上の約半数はハザードマップの内容を理解している。

〇若年層ほどハザードマップの内容を理解していない。

ハザードマップ
自然災害による被災想定区域や避難先などを表示した地図



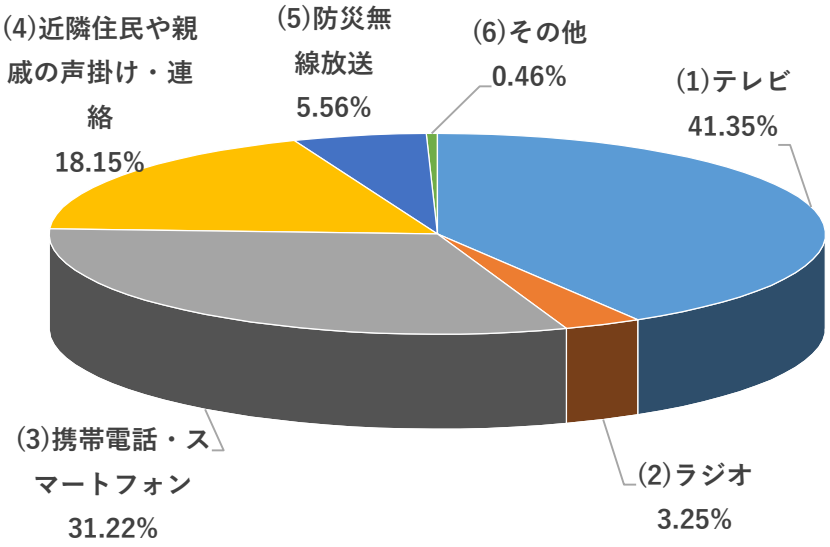
市民緊急アンケート調査より n ＝4,435

4－4　今回の検証　－アンケート分析（津波警報の情報取得手段）－

津波警報の情報取得手段

市民アンケート【問４】

市民緊急アンケート調査より
n ＝ 6 ,979



年　　代	回答数	割合
10代		
(1)テレビ	9	37.5%
(2)ラジオ	2	8.3%
(3)携帯電話・スマートフォン	6	25.0%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	6	25.0%
(5)防災無線放送	1	4.2%
(6)その他	0	0.0%
20代		
(1)テレビ	37	38.9%
(2)ラジオ	2	2.1%
(3)携帯電話・スマートフォン	21	22.1%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	31	32.6%
(5)防災無線放送	4	4.2%
(6)その他	0	0.0%
30代		
(1)テレビ	100	35.1%
(2)ラジオ	1	0.4%
(3)携帯電話・スマートフォン	68	23.9%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	104	36.5%
(5)防災無線放送	8	2.8%
(6)その他	4	1.4%
40代		
(1)テレビ	263	35.5%
(2)ラジオ	18	2.4%
(3)携帯電話・スマートフォン	176	23.8%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	246	33.2%
(5)防災無線放送	33	4.5%
(6)その他	5	0.7%
50代		
(1)テレビ	391	37.9%
(2)ラジオ	19	1.8%
(3)携帯電話・スマートフォン	285	27.6%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	279	27.1%
(5)防災無線放送	51	4.9%
(6)その他	6	0.6%

年　　代	回答数	割合
60代		
(1)テレビ	620	40.9%
(2)ラジオ	40	2.6%
(3)携帯電話・スマートフォン	514	33.9%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	248	16.4%
(5)防災無線放送	85	5.6%
(6)その他	8	0.5%
70代		
(1)テレビ	1,028	43.5%
(2)ラジオ	91	3.8%
(3)携帯電話・スマートフォン	846	35.8%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	242	10.2%
(5)防災無線放送	152	6.4%
(6)その他	6	0.3%
80代以上		
(1)テレビ	408	47.6%
(2)ラジオ	51	5.9%
(3)携帯電話・スマートフォン	237	27.6%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	107	12.5%
(5)防災無線放送	52	6.1%
(6)その他	3	0.3%
年代空白		
(1)テレビ	30	46.2%
(2)ラジオ	3	4.6%
(3)携帯電話・スマートフォン	26	40.0%
(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	4	6.2%
(5)防災無線放送	2	3.1%
(6)その他	0	0.0%
【合　計】		
計(1)テレビ	2,886	41.4%
計(2)ラジオ	227	3.3%
計(3)携帯電話・スマートフォン	2,179	31.2%
計(4)近隣住民や親戚の声掛け・連絡	1,267	18.2%
計(5)防災無線放送	388	5.6%
計(6)その他	32	0.5%

○津波警報の情報取得手段は、テレビが約４割、携帯　電話・スマートフォンが約３割で概ね全て年代で同様の傾向であった。

4－5　今回の検証　－アンケート分析（避難した場所）－

避難した場所

市民アンケート【問5-1】

市民緊急アンケート調査よりｎ＝4,327

○沿岸部西側（放生津、新湊、庄西）は避難場所へ避難した割合が高い。

○沿岸部東側（堀岡、海老江、本江）は沿岸部西側と比べて、避難場所以外（親戚、知人宅、市南部の内陸部など）に避難した割合が高い。

○内陸部(小杉、大門、大島地区等)は「避難しなかった・できなかった」と回答した割合が高い。

○作道や塚原など津波のリスクがない地区においても約６割が「避難した」と回答している。

【沿岸部】←←【内陸部】

振興会		(1)避難場所へ避難した	(2)避難場所以外に避難した（親戚、知人宅、市南部の内陸部など）	(3)自宅の２階（垂直避難）	(4)避難しなかった・できなかった
放生津		62.79%	20.54%	3.10%	13.57%
新湊		64.15%	21.29%	5.39%	9.16%
庄西		67.50%	27.50%	5.00%	0.00%
堀岡	【西部】	53.28%	36.07%	3.28%	7.38%
海老江	【西部】	49.61%	40.94%	1.57%	7.87%
本江	【西部】	37.18%	51.28%	1.28%	10.26%
七美	【内陸部】	46.67%	38.33%	8.33%	6.67%
片口	【内陸部】	42.46%	46.93%	3.35%	7.26%
下	【内陸部】	43.44%	33.61%	5.74%	17.21%
作道	【内陸部】	44.70%	19.35%	6.91%	29.03%
塚原	【内陸部】	38.51%	22.97%	6.08%	32.43%
大江	【内陸部】	35.16%	31.87%	4.40%	28.57%
大島	【内陸部】	29.10%	11.05%	4.42%	55.43%
三ケ	【内陸部】	22.03%	10.57%	4.85%	62.56%
戸破	【内陸部】	23.76%	13.86%	4.95%	57.43%
大門	【内陸部】	23.66%	10.22%	5.91%	60.22%
二口	【内陸部】	12.90%	5.65%	4.03%	77.42%
橋下条	【内陸部】	25.00%	7.00%	3.00%	65.00%
太閤山	【内陸部】	11.23%	5.88%	3.21%	79.68%
中太閤山	【内陸部】	6.38%	4.26%	3.19%	86.17%
南太閤山	【内陸部】	8.27%	3.01%	1.50%	87.22%
水戸田	【内陸部】	3.85%	7.69%	3.85%	84.62%
浅井	【内陸部】	14.85%	7.92%	3.96%	73.27%
黒河	【内陸部】	11.61%	11.61%	3.57%	73.21%
池多	【内陸部】	10.00%	10.00%	0.00%	80.00%
櫛田	【内陸部】	3.95%	3.95%	3.95%	88.16%
金山	【内陸部】	9.26%	1.85%	5.56%	83.33%
(空白)		27.72%	17.82%	8.91%	45.54%
総　計		32.86%	17.86%	4.46%	44.81%

避難場所への移動手段

市民アンケート【問5-2】

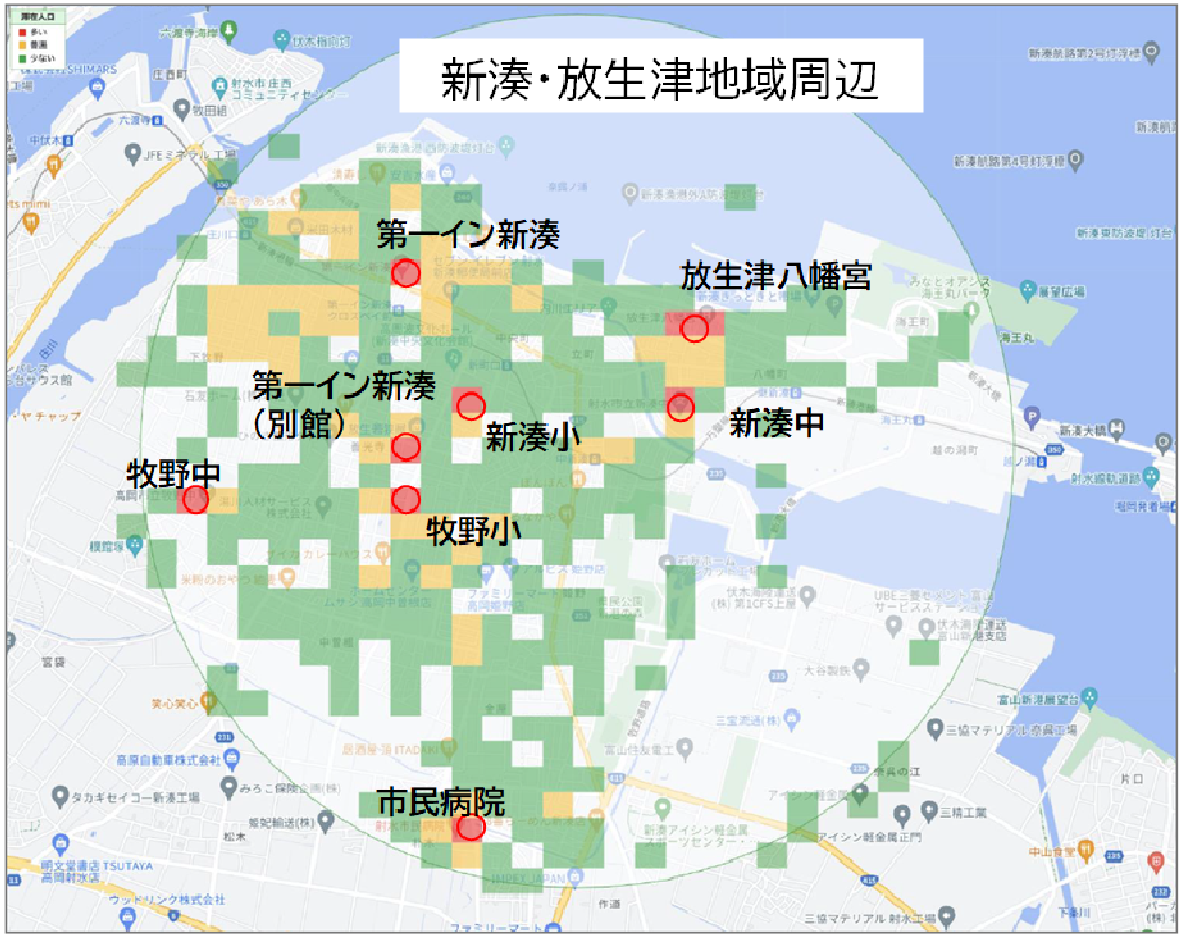
市民緊急アンケート調査より　n ＝1,413

〇沿岸部西側（放生津、新湊、庄西）は徒歩で避難した割合が高い。

〇沿岸部東側（堀岡、海老江、本江）は車で避難した割合が高い。

〇内陸部(小杉、大門、大島地区等)ほど、車での避難した割合が高い。

4－7　今回の検証　－人流分析（新湊・放生津地域周辺）－



滞在人口分析

日時：1月1日（月）
5:00～29:00（24時間）
滞在時間15分以上
半径2.0kmの範囲

時間	人数	増減
16時	18,388人	16時基準
17時	13,353人	△5,035
21時	15,168人	△3,220
25時	15,318人	△3,070

16時から17時で5,035人、
約27％の人がこの範囲外へ移動
（避難）した

○ 赤い部分に避難した人が多いことがうかがえる。

4－7　今回の検証　－人流分析（堀岡・海老江地域周辺）

滞在人口分析

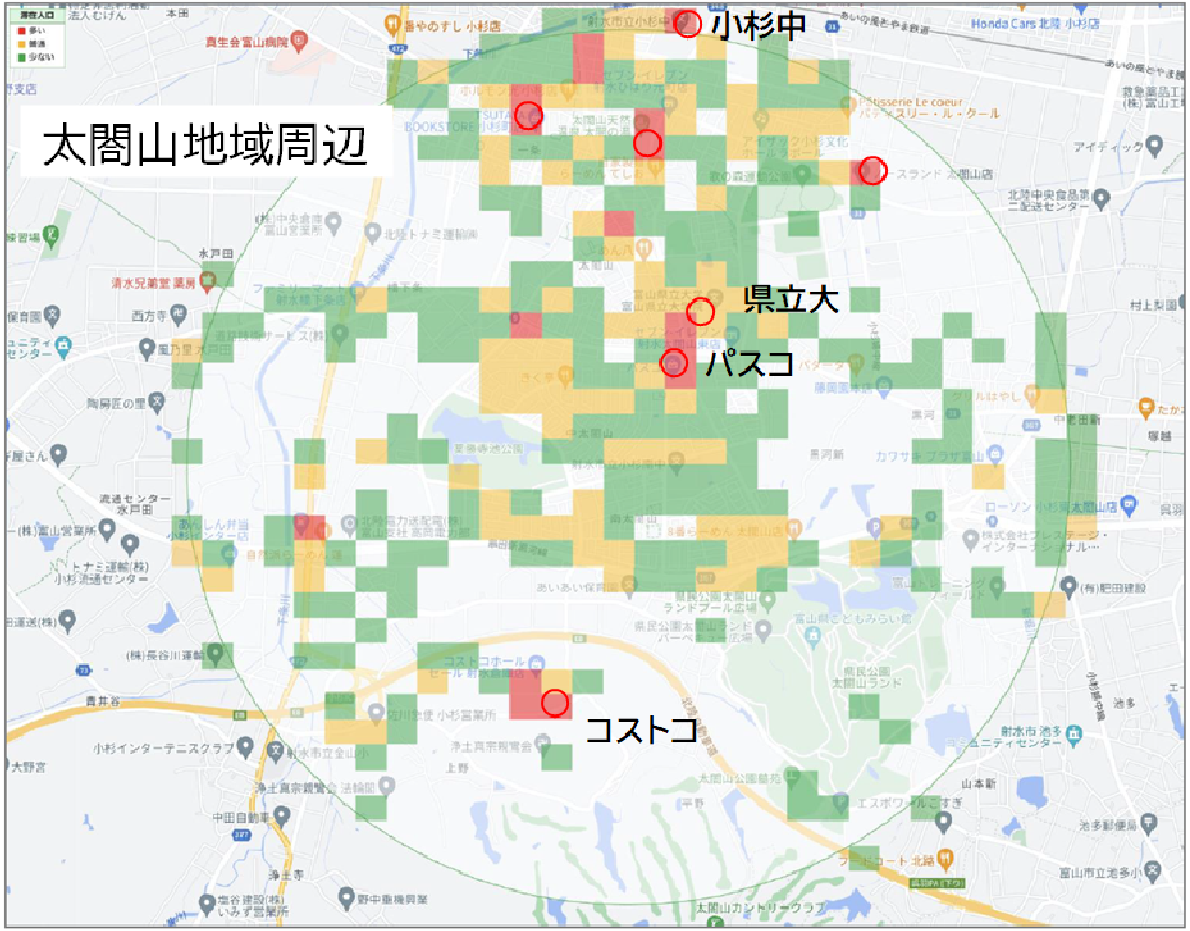
日時：1月1日(月)
5:00～29:00(24時間)
滞在時間15分以上
半径2.0kmの範囲

時間	人数	増減
16時	4,696人	16時基準
17時	2,024人	△2,672
21時	3,108人	△1,588
25時	3,220人	△1,476

16時から17時で2,672人、
約43％の人がこの範囲外へ移動
（避難）した

◯ 赤い部分に避難した人が多いことがうかがえる。

4－8　今回の検証　－人流分析（太閤山地域周辺）－



滞在人口分析

日時:1月1日(月)
5:00～29:00(24時間)
滞在時間15分以上
半径2.0kmの範囲

時間	人数	増減
16時	15,922人	16時基準
17時	20,254人	4,332
21時	16,365人	443
25時	15,602人	△320

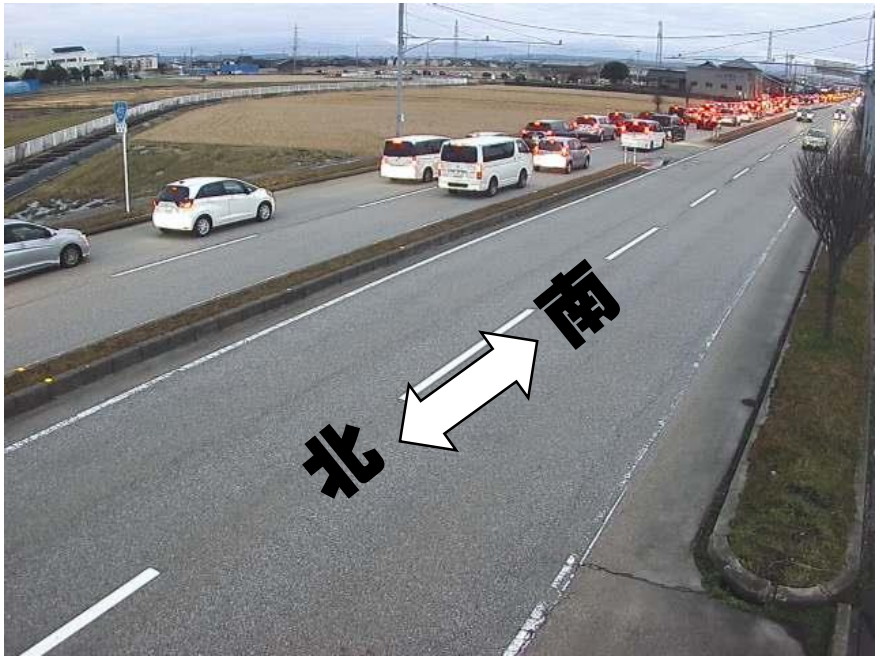
16時から17時で、4,332人、約27％の人がこの範囲外から移動（避難）してきた

○車での道路渋滞、コストコ等駐車場
■へ避難し人が多くみられる

道路渋滞状況写真

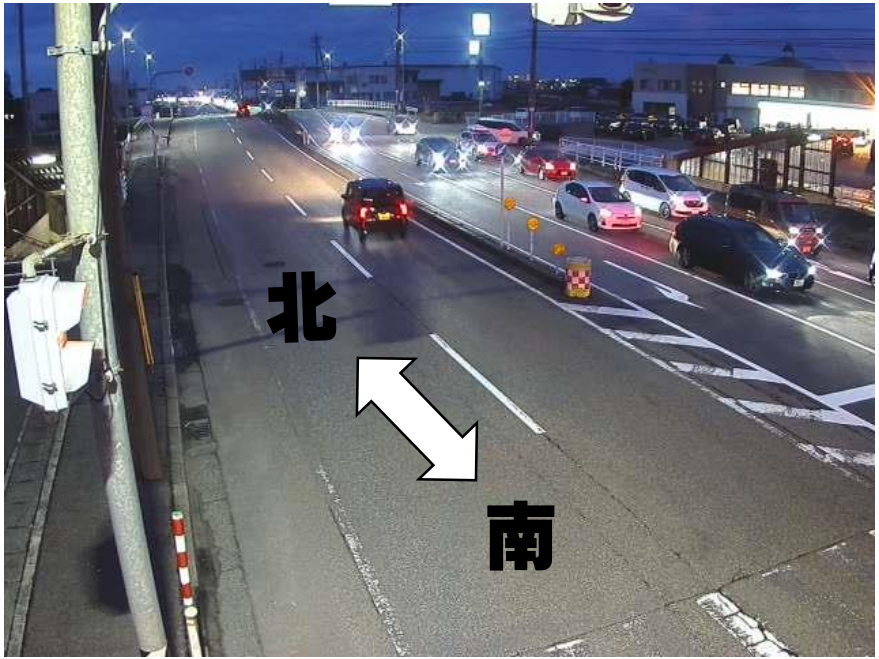
２０２４年（令和６年）１月１日

国道４７２号　　鏡宮付近



16：50分

橋下条交差点



17：10分

4－9　今回の検証　－人流分析（新湊地区内道路状況）－

新湊市街
↓
南方向

日時：1月1日（月）
移動手段：車

16:00～17:00
16:12津波警報

津波警報発令中

新湊市街から南へ向かう車で南北の道路が混雑

4 -10　今回の検証　－人流分析（太閤山周辺道路状況）－

太閤山周辺

日時:1月1日(月)
移動手段:車

16:00～17:00
16:12津波警報

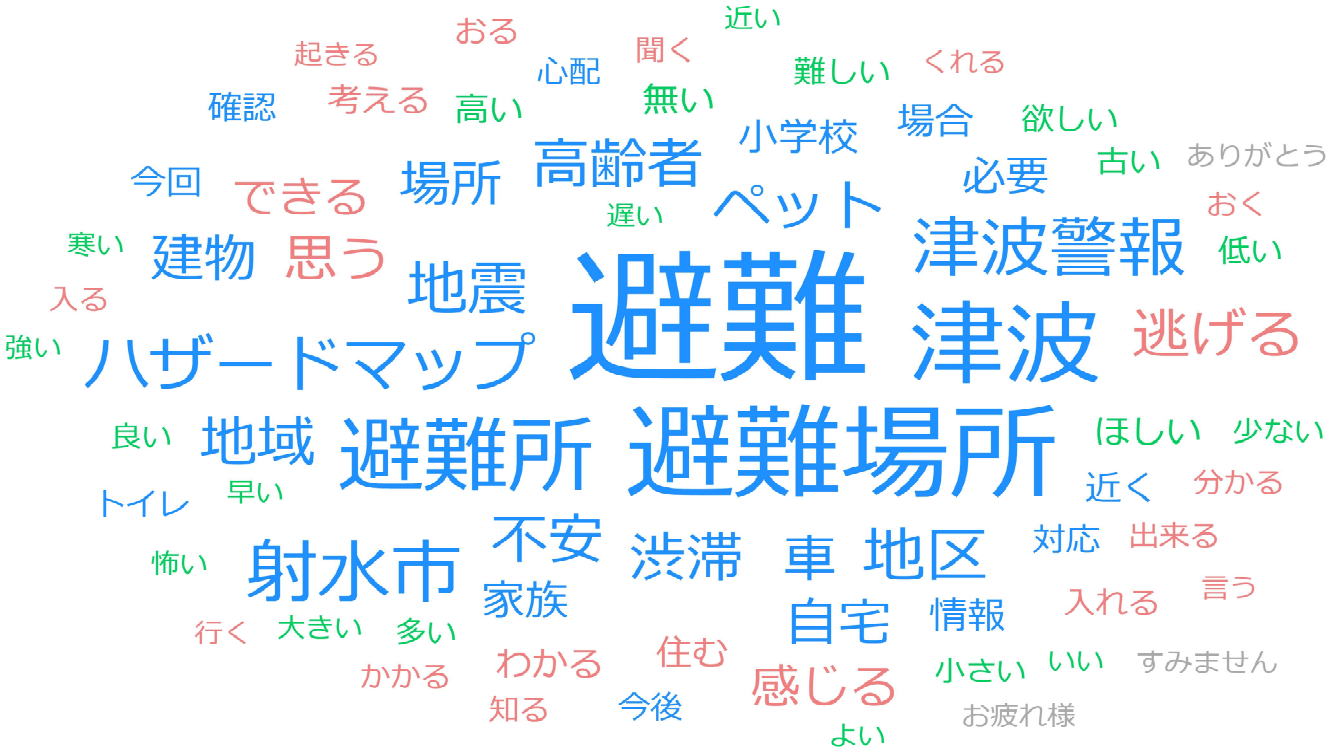
津波警報発令中

北側から南へ向かう車が増加

4 -12　今回の検証　－アンケート自由意見のAI分析－

＜市民緊急アンケート調査の自由意見の中でスコアが高い単語を複数選び、その値に応じた大きさで図示したもの＞

AIテキストマイニング
㈱ユーザーローカル



青	名詞
赤	動詞
緑	形容詞

※スコアとは使用頻度だけでなく、AIが対象の文章を分析し、単語の重要度を判断した数値

4 -13　今回の検証　－住民の避難行動－課題と対策（案）

＜課題・問題点＞

①避難しなかった人が一定数いた

②沿岸部から市南部方面に向かう車で渋滞が発生

③避難の必要のない区域の方が車で市南部方面に避難

④市民のおよそ半数がハザードマップを正しく理解していない（市民緊急アンケートから）

⑤津波警報が発表された際は、近くの避難場所へ原則として徒歩で移動することを理解していない

⑥地震・津波などの災害リスクの認知不足

＜対策（案）＞

❶原則、徒歩による避難を周知

❷津波ハザードマップの浸水リスクを周知

❸渋滞個所をハザードマップに追記し、可視化することで徒歩による避難を促進

❹指定緊急避難場所を拡充（民間施設）

❺海抜表示看板を拡充（増設、浸水深を追記）

❻地区防災計画の策定促進（地域振興会1地区→27地区）

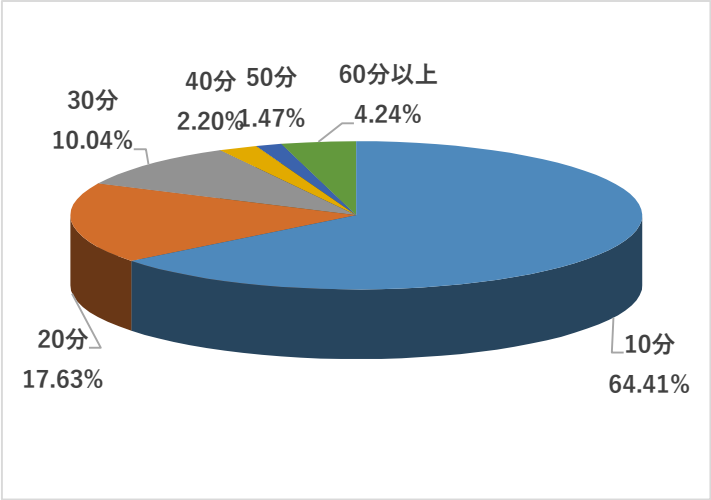
❼津波を想定した実効性のある訓練を実施

4 -14　今回の検証　－避難所開設・運営－（アンケート分析）

避難場所への避難に要した時間

市民アンケート【問5-3】

市民緊急アンケート調査より
n ＝1,225



地区	10分	20分	30分	40分	50分	60分以上
放生津	72.85%	13.91%	6.62%	0.66%	1.99%	3.97%
新湊	71.50%	13.53%	8.70%	2.42%	1.45%	2.42%
庄西	90.32%	0.00%	0.00%	3.23%	3.23%	3.23%
堀岡	53.85%	9.62%	17.31%	3.85%	1.92%	13.46%
海老江	50.91%	7.27%	16.36%	3.64%	1.82%	20.00%
本江	44.83%	20.69%	20.69%	3.45%	6.90%	3.45%
七美	52.00%	20.00%	20.00%	0.00%	4.00%	4.00%
片口	44.78%	25.37%	19.40%	4.48%	2.99%	2.99%
下	58.18%	25.45%	14.55%	0.00%	0.00%	1.82%
作道	50.00%	19.77%	13.95%	3.49%	2.33%	10.47%
塚原	48.00%	30.00%	14.00%	8.00%	0.00%	0.00%
大江	48.39%	32.26%	12.90%	0.00%	0.00%	6.45%
大島	70.94%	20.51%	6.84%	0.85%	0.00%	0.85%
三ケ	52.38%	23.81%	11.90%	2.38%	2.38%	7.14%
戸破	76.19%	21.43%	1.19%	1.19%	0.00%	0.00%
大門	75.68%	21.62%	2.70%	0.00%	0.00%	0.00%
二口	60.00%	40.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
橋下条	85.00%	5.00%	5.00%	0.00%	0.00%	5.00%
太閤山	81.25%	12.50%	0.00%	0.00%	6.25%	0.00%
中太閤山	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
南太閤山	75.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
水戸田	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
浅井	63.64%	18.18%	18.18%	0.00%	0.00%	0.00%
黒河	77.78%	22.22%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
池多	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
櫛田	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
金山	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	64.51%	17.79%	9.89%	2.08%	1.50%	4.24%

〇徒歩で避難した割合が高い沿岸部西側（放生津、新湊、庄西）は７割以上が１０分で避難場所に到着

4 -15　検証（②避難所の開設・運営について　課題と対策(案)）

＜課題・問題点＞

①避難所開設職員、施設管理者が到着する前に避難者が到着し、施設内に入れない事例が発生。

②沿岸部の小中学校でガラス等を破って避難した事例が発生（新湊小ほか４校）。

③短時間で避難者が殺到した為、避難者名簿を作成できなかった。

④施設内のどの部屋を使うか、備蓄品の場所等、施設及び地域と共有できていない。

⑤避難場所（発災時に一時的に避難する場所）から避難所（一定期間滞在する場所）への切り替え時期が明確化されていない。

⑥避難者に備蓄品（食料、水、備蓄品等）を提供するタイミングが不明確。

⑦ペット同行避難者への対応に苦慮した。

＜対策(案)＞

❶沿岸部の小中学校、コミュニティセンターを中心に地震解錠ボックスの設置や緊急時にガラスを割る位置を共有

❷避難所運営にあたり、施設管理者と地域で使用する部屋、備蓄場所等の情報を事前に共有

❸避難所における人数把握、円滑な被災者支援のため、デジタル技術を活用したシステムの導入を検討

❹ファーストミッションボックス（避難所開設・運営の手順等をまとめたもの）の設置

❺地区防災計画の策定推進

❻地域防災計画等に避難先の切り替え時期や備蓄品の提供時期について明記

❼ケージに入れての避難や屋外での飼育スペース等確保

4－16　検証（③災害対策本部の運営について　課題と対策(案)）

＜課題・問題点＞

①市民から様々な問い合わせが殺到し、また、状況が刻々と変化するため、状況を整理できなかった。（対応する職員も不足）

②職員間は、チャットで連絡を取り合ったが、次々と新たな情報が入り錯綜し、必要な情報が埋もれて処理できなかった。

③発災後の対応等について、詳細な活動記録を残すことができなかった。

④情報を市民にどのタイミングでどう伝えるのか明確ではなかった（問い合わせ殺到の要因）。

⑤職員参集メール（安否確認含む）が７０件（約10%）しか返信がなく、参集職員の勤務実態を把握できなかった。

⑥外国人キーパーソン（22名）へ外国人へのアンケートを実施したところ、発災時の情報伝達手段としてSNSが有効であるの回答があった。

＜対策(案)＞

❶災害対策本部での各担当班が自律的に機能するよう体制を周知確認

❷チャット内でグループを設定し対応する人員配置（実施済）

❸市民が必要な情報は、当日、翌日、１週間後などで変化するため、フェーズごとの情報発信の内容や時期などを整理

❹情報収集・伝達、広報活動等でデジタル技術を活用し、円滑かつ効果的な手法を検討

❺部局を横断した相互応援体制の検討

❻実態に即した訓練（災害対策本部設置・運営訓練、要配慮者、外国人等）の実施

❼職員の参集体制の検討、周知

❽多言語に対応した情報発信

4－17　検証（④関係機関との連携、受援体制について　課題と対策(案)）

＜課題・問題点＞

①市外からの応援職員の受入体制の整備ができておらず混乱した。

②応急対策職員派遣要請に時間を要した。

③住家の被害認定調査や罹災証明発行業務の入力等の負担が大きく、処理に時間を要した。

④地震発生が祝日であり、災害協定締結先と連絡が取れない事例があった。

＜対策(案)＞

❶日頃から研修や訓練等を通じた、受援体制の確認

❷関係機関からのプッシュ型の情報提供及び情報共有

❸県内で共同利用が進んでいる「被災者再建支援システム」を導入することで、作業効率の向上、職員の負担軽減を図る。

4 -18　検証　今後のスケジュール

＜今後のスケジュール（案）＞

９月２６日（木）１３時３０分～
第２回 検証委員会
内容：対策の整理

11月　第３回 検証委員会
内容：検証項目の進捗報告

２月　第４回 検証委員会
内容：地域防災計画や各種マニュアル等の見直しの方向性を整理